

私たちメンバー間で共有された「環境が作り出す高齢者の閉じこもり」の問題から

保健福祉分科会（2－2班） 上城、川上、塩向、二之宮、原口、の場

薩摩川内市の高齢化率は26.9%（平成23年度）で、全国の高齢化率を約3%上回っており、今後も高齢化率の上昇が予想される。急激に過疎化が進み、地域での生活が困難になっている地域もある。このような状況の中、私たちのグループは高齢者が地域生活で抱える問題について意見を出し合い、特に「環境が作り出す高齢者の閉じこもり」の状況についての問題意識を共有し、調査・研究のテーマを「高齢者が抱える生活上の困難を地域コミュニティで支えるちからを生み出す交流の場づくり」とした。

[現状として把握されたこと]

- (A) 学童保育の状況等、子育て世代の若い人達を支える地域環境が若い人達と地域の関わり方に影響している。
- (B) 自立への意欲のある高齢者の取組が活性化につながっている地域もある。
- (C) ひとり暮らしの高齢者等を地域で見守りや支援が十分にできていない状況がある。
- (D) 高齢者にとって移動手段の確保と、その使い易さは地域との関わり方として影響を及ぼし「閉じこもり」の要因となっている。
- (E) 高齢化が進行する地域では生活上の困難や不安を抱えて介護している人も多く、身近な相談や支援へのニーズが潜在している。

[課題として提起されたこと]

これらの現状から課題を抽出する過程で、特に現状の（Ｅ）について、介護保険サービス、健やか支援アドバイザーや民生委員・児童委員等の訪問等行政機関等による見守り支援等は実施されているが、ひとり暮らしの高齢者等で頑なに訪問を拒む人や家に閉じこもっていて地域との関わりを拒む人がある。このような人たちにこそ身近な相談や支援へのニーズが潜在している。生活に身近な困難や悩みがあり、それを支援するには行政サービスでは限界があり、身近な地域コミュニティによる支援が必要であるという認識を深めた。そして、私たちは、どのような仕組みなら、どのような場なら、現在のサービスが届いていない「環境が作り出す高齢者の閉じこもり」の中にある人たちを支えることができるかについて話し合い、地域コミュニティによる「だれもが気軽に通える交流の場づくり」の展開を考えた。「だれもが気軽に通える交流の場」とは、地域の人との関わりを拒む人たちも受容できる、誰にとっても居場所となるよう日常の暮らしに続いている「茶飲み場」のことであり、このような場に生まれる当事者視点に根差した交流のちからによりここで地域で暮らし高齢者と生活上で困っていること等を語り合い、その中から見えてくる必要な支援をボランティア意欲のある方とつなぐ役割を担うことである。

これらの現状から重点課題は、「行政に頼らない、地域で支援していく仕組み作り」と考察を進めました。私たちが行うサポートとしては、

- ① だれもが気軽に通えるお茶呑み場をつくる。
- ② 地域で暮らす高齢者の生活上で困っていることを語り合い、ボランティア意欲のある方とつなぐ役割を担う。
- ③ 介護者や子育てに悩んでいる人をお互いに支え合える場をつくり、必要なときは行政サービスや相談機関につなげられるネットワークの役割を担う。

[この構想の付加価値]

- ①生活上の困難を抱えている高齢者の支援をし、生活状況が改善する。
- ②悩み事を抱えている高齢者や介護者、子育て世代の方が、気軽に相談できる場づくり、行政や地域の相談機関とつながる。
- ③高齢者の持っている特技（日曜大工・剪定、掃除など）を地域で活かし、生きがいがづくりにつながる。④当事者同士の交流から生まれる自助グループにより相互関係をつくる。

[この構想によって利害が及ぶ人々]

- ①地域との関わりを拒み、閉じこもりがちの人。
- ②環境の問題（距離・路上）や身体的な障害があることで移動困難な人。
- ③生活上の困難を支えるケースワークに関わる専門家（民生委員、アドバイザー）。
- ④ボランティア意欲や専門的知識があるが、その機会にめぐまれない人。
- ⑤相談を受ける公的・民間機関。

[長期的（3～5）年程度] 経営計画]

- ・活動拠点となる場の確保。
- 高齢者が行う生活支援をボランティアから有償ボランティアへ事業体制の確立。
- ・夕方や土曜日などに児童が集まり、高齢者が見守りや遊び（伝承遊び）を提供できる場作り。

[中期計画（1～2年程度）] 経営計画

- ・定期的なお茶飲み会の開催。
- ・悩みや困ったことを受けた際に、特技（日曜大工、包丁研ぎ）をもった高齢者を地域への排出できる、ネットワークづくり。
- ・地域活動の担い手のとなる若者の育成。
- ・児童を持つ家庭への事業の説明、呼びかけ。

「短期的（数か月）経営計画」

- ・事業の広報活動
- ・地区コミュニティや自治会への事業の説明と周知。
- ・ボランティア意欲のある人や専門的な知識・技術を持っている方への説明と協力。持っている「スキル」の把握とリスト作成。
- ・生活支援に関わる行政サービスの調査と連携。
- ・一人暮らし宅の方への協力の申し出
- ・お試しでの月2回程度のお茶会の開催。

[実現のための制約要因]

- ・場所の確保（空き家、庭先、縁側、空き部屋） ・地区コミとの調整（イベント、人） ・高齢者の特技の引き出し ・若者の協力体制の確立 ・運転資金
- ・ボランティアの確保

[実現のための制約要因]

- ・場所の確保（空き家、庭先、縁側、空き部屋） ・地区コミとの調整（イベント、人）
・高齢者の特技の引き出し ・若者の協力体制の確立 ・運転資金 ・ボランティアの確保

[獲得すべき経営資源]

財務的資源：補助金の活用（市民活動補助、空き家再生利用補助金）

物的資源：空き家、庭先、縁側、空き部屋、

情 報 的 資 源 : 地 区 コ ミ 便 り、メ デ ィ ア の 活 用 (F M さ つ ま せ ん だ い 等)

[そのために必要なネットワーク化]

自らの組織、グループの補強：事業を運営するための協力者や賛同者を得る。メンバーの掘り起し

他の組織やグループとの関係：地区コミュニティ協議会

特定の個人（特に専門能力を有する人）：民生委員（児童民生委員）、健やか支援アドバイザー、地域ボランティアグループ

対行政：薩摩川内市コミュニティ課男女共同参画グループ、社会福祉協議会、保健センター、生涯学習センター、県男女共同参画センター、県共生・協働推進課